

【学校教育目標】

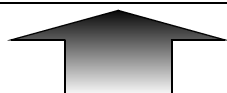
チーム城西 とともに光りかがやく

～ もあハッピー大作戦 第3章 「みんなの幸せがずっと続くために」～

令和5年度のキーワードは「ハッピー」

【未来大館市民こども像～未来を紡ぎ上げる力】

- 1 ふるさと城西を愛し、地域のためにできることを考え、実践する子ども (FC)
- 2 健康を意識し、体力づくりをする子ども (体)
- 3 自他のよさが分かり、思いやりを態度に表す子ども (徳)
- 4 自分の考えを表現し、共感・協働しながらすすんで学び合う子ども (知)



重 点		実 践 課 題
人間的基礎力・大館市民実践力の育成	A 特色ある学校運営 ～コミュニティ・スクール	<input type="checkbox"/> 特色ある教育課程の編成 (キャリア発達の支援) <input type="checkbox"/> 組織の機能化と予算の効率的な執行 <hr/> <input type="checkbox"/> 保護者・地域との連携強化と情報の受発信
	B 学ぶ力の育成	<input type="checkbox"/> 学習習慣の確立と基礎・基本の定着 <hr/> <input type="checkbox"/> 授業力の向上と校内研修の充実
	C やさしい心と 安全・安心づくり	<input type="checkbox"/> 主体的な特別活動・児童会活動 <hr/> <input type="checkbox"/> 諸問題への迅速かつ適切な対応
	D 健康と体力の向上	<input type="checkbox"/> 基本的な生活習慣・食習慣の定着 <input type="checkbox"/> 自立に向けた生活習慣の確立 <hr/> <input type="checkbox"/> 体力づくり
	E ふるさとキャリア教育	<input type="checkbox"/> SC活動 <input type="checkbox"/> 弥栄プロジェクト



4年授業「共感的・協働的学び」



6年マラソン記録会 (秋)



5年総合「城西っ子米脱穀作業」

IV 評価

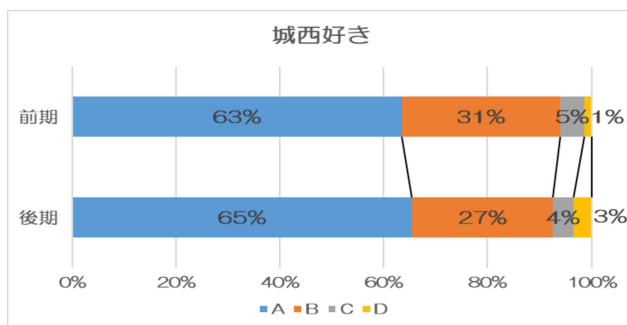
重点A 特色ある学校運営～コミュニティ・スクール

1 組織・運営				
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
地域と連携しながら、特色ある学校づくりを計画的・組織的に推進している。	前期	良好	良好	児童と先生の触れ合いの時間を確保するために、教育課程に関する見直しをしたことが、効果的に学校運営に生かされている。
	年度	良好	良好	B日課を設定し、先生方が児童と向き合う時間を確保した成果が見られる。コミュニティ・スクールの特色が生かされており、城西小らしさが出ている。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】今年度は、児童の意欲や自主性を引き出しつつ、教師が児童一人一人に向き合い、学習・生活両面の指導を充実させることを目的に、教育課程の編成を行った。週2回のB日課の設定により、教師の授業改善や児童理解の時間を保障することができたと考える。クラブも地域の方の得意分野や専門性を生かして、外部講師を積極的に活用し、楽しく充実した活動ができたこと児童からも好評だった。各教科の授業でも地域人材を活用して、児童の興味・関心を高めるバラエティーに富んだ内容で進めることができ、児童の安全確保や学習活動の見取りをきめ細かく行うことができた。</p> <p>地域委員会との連携により、学校生活の楽しさを感じることができ、児童のふるさとを愛する心と地域のための活動に取り組もうとする意欲も高まったと考えられる。</p> <p>次年度も、学校の諸活動の改善を図り、コミュニティ・スクールのよさを生かして、地域と連携・協働し、地域とともにある学校づくり、地域を元気にし、地域の核となる学校づくりに努めていきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
1 地域に信頼される地域の核となる学校	(1)特色ある教育課程の編成（キャリア発達の支援）	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人と向き合い、指導の充実を図るための教育課程の編成 生活科及び総合的な学習の時間を中心とした大館ふるさとキャリア教育の推進とSC活動の推進 地域委員会との連携 	4	4
	(2)組織の機能化と予算の効果的な執行	<ul style="list-style-type: none"> 指導部・プロジェクトの組織編成と、学校教育目標を実現するための計画的・組織的な取組 指導部・プロジェクトの取組が円滑に行われるための予算の効果的な執行 	4	4

[1-(1)に関するデータ]

〈児童アンケート〉城西小学校が好き



A よく思う B 思う C 思わない D 全く思わない

◎取組の実際

(1) 教育課程の編成

- ①週2回のB日課実施
- ②インクルーシブ教育拡充のための時間割編成
- ③教科・単元に応じた担任外教員によるチームティーチング
- ④クラブへの外部講師招聘
(7つのクラブで講師を依頼)

(2) 地域学校協働活動推進事業の活用

- ①校外行事・学習の引率等支援
・スキー教室講師依頼と連絡調整
(外部講師・保護者延べ74名)

◎各教科での外部人材活用

- ・3年秋田杉メモスタンド作り（指導者4名）
親子学習会曲げわっぱづくり（指導者4名）
- ・4年介護のお仕事PR隊（指導者13名）
- ・5年鳳凰山登山（5名）
米作り（根下戸町内会 協力者延べ26名）
- ・5・6年家庭科ソーイング補助
(2日間 協力者延べ28名)
- ・5・6年職業講話（講師2名）
- ・1～6年食育指導（給食センター栄養教諭）

◎図書館環境支援

- ・蔵書管理
- ・図書整理
(栗盛図書館司書1名、PTA一人一役32名)

(3) 地域委員会との連携

- ①城西ふれあいフェスティバル
- ②スペシャル休み時間（保護者・地域ボランティア43名）
- ③桂桜高校との交流授業（高校生36名）
- ④読み聞かせボランティア（お話宅急便7名）
- ④ボランティア交流会（54名）



スペシャル休み時間



6年 ミシン学習

2 保護者・地域との連携				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
取組を分かりやすく保護者や地域に伝え、地域の教育力を有効に活用している。	前期	良好	良好	情報の発信が、地域及び保護者に対して効果的になされている。今後も継続していただきたい。
	年度	良好	良好	学校報やブログなどによる家庭や地域への情報発信によく取り組まれている。地域との連携、協力体制も非常に充実している。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】児童の学びの姿や行事の取組などを家庭や地域に伝えるために、学校報を毎週発行している。また、コミュニティ通信「コムニタ」を毎月発行し、学校・家庭・地域が連携した取組を幅広く地域に発信している。夏休み以降、学区内で野生生物（クマ）の目撃情報が頻発したため、ブログと連絡メールを活用し、安全に関わる情報提供を全世帯にタイムリーに行った。ガードボランティア隊の方々との情報交換会には毎週20名以上の隊員が参加し、いただいた情報を指導に生かしている。</p> <p>P T Aや地域ボランティアの方々による協力体制も充実している。稲刈り・脱穀体験、家庭科の実習やスキー教室などで活動を支援し、児童の体験的な学びを支えている。学校の教育活動に協力している方々が一堂に会して情報交換をする「ボランティア交流会」をコロナ禍以前の形式で開催し、関係団体同士の親睦を深めたことも大きな成果として捉えている。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
2 地域との協働と情報の受発信	(3) 保護者・地域との連携強化と情報の受発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校報「城西YES!! 2023」配布とHPへの掲載 地域報「コムニタ」の発行 ・ブログで子どもたちの活動の様子を発信 ・オレンジ隊（ガードボランティア隊）との情報交換 ・P T A活動（一人一役を含む）への参加 ・地域学校共同活動による支援の有効活用 	4	4

〔2に関するデータ〕

◎取組の実際

(1) お便り等による情報提供について

- ・ブログ・HPによる情報発信 随時配信
- ・学校報「城西YES!! 2023」 週1回発行
- ・地域報「コムニタ」 月1回発行
- ・学年便り・保健だより・城西っ子のくらし
- ・連絡メールの活用（安全に関する連絡・情報提供等）

(2) オレンジ隊との情報交換・下校の見守り

- ・学校側と情報交換会（毎週木曜日）
- ・1年生の安全な下校の見守り（情報交換後）

〈保護者アンケート〉「学校は情報を発信している」

情報の受発信

時期	A	B	C	D
前期	62%	38%	0%	0%
後期	65%	34%	1%	0%

親子ふれあい学習 学期末学年懇談会

(4) 地域学校支援活動による支援の有効

本の読み聞かせ 家庭科実習補助

オレンジ隊との情報交換会 学校報「城西Yes2023」(左)

スペシャル休み時間 スキー教室指導

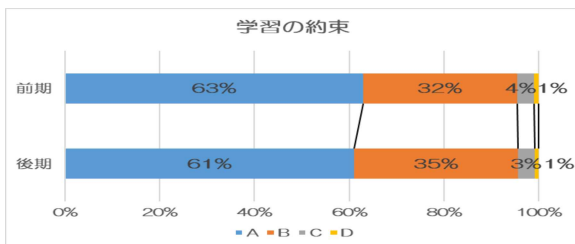
重点B 学ぶ力の向上

3 自ら考え学び合う力と基礎学力の育成

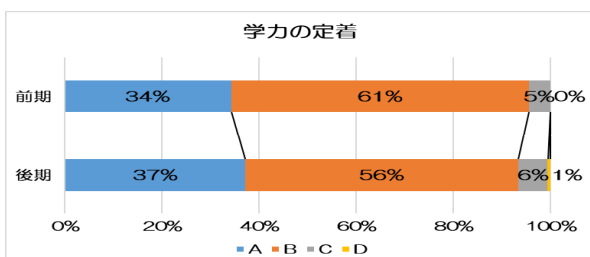
児童生徒の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
意欲的に授業に臨み、学習習慣を確立し、確かな学力を身に付けている。	前期	概ね良好	概ね良好	現在の取組を継続し、さらに成果を上げていただきたい。
	年度	概ね良好	概ね良好	基礎学力の定着、先生方の授業改善の取組を今後も充実させていってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度(→次年度)】学習の約束の徹底のために、強調週間だけでなく年間を通した指導を継続している。2学期のノート展示では、算数の授業のノートを展示した。家庭学習だけでなく授業のノートを見ることで見やすさや書き方など、おさえるべきポイントが明確になり、児童、保護者、職員にとってよい手本となった。ノートを見る day で隣の学級の児童のノートを見たり、校長先生が家庭学習にコメントしたりすることで、職員、児童両方がよい刺激を受けている。学校教育目標の達成に向けて、様々な施策の成果と課題を吟味しながら今後も丁寧に取り組んでいきたい。</p> <p>算数を研究教科に、一人一授業として13回の研究授業を実践した。学団と全体での2段階の指導案検討会、研究授業後の反省をすぐにフィードバックするなど、よりよい授業づくりを追究してきたことで、「数学的な見方・考え方」を働かせた授業が増えてきた。また、学び合い(本気ツズタイムⅠ・Ⅱ)のあり方も実践を重ねることで確立されつつある。これらの結果、ペアや全体で話し合っ課題を解決しようとする児童の姿が増えるなど、意欲面での成果が出ている。学力の定着については、大きく低下することはなかった。しかし、学力・学習状況調査の結果では、県平均を下回るものもある。今後は分析した課題を共通理解し、日々の授業で取り組み、改善しながら学力向上に取り組んでいきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
3 目標をもち、ねばり強く学習に取り組む子	(4) 学習習慣の確立と基礎・基本の定着	<ul style="list-style-type: none"> 学習スタンダードの徹底(「学習の約束」の掲示、強調週間) 家庭学習の習慣化(ノートを見る day、ノート展示、マイスターの表彰、強調週間、家庭読書) 基礎基本の定着(城西検定、週末プリント、学習会、音読) 学習環境の整備(学び・道徳の各コーナー・学年花壇) 視聴覚・メディア、学校図書館の利用、読書の推進 	3	3
4 学力向上を図る授業力の向上	(5) 授業力の向上と校内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりのための研究会(「数学的な見方・考え方」を働かせたり本気ツズタイムを充実させたりする授業づくり) 一人一研究授業の実施 ワークショップ型授業研究会の充実 学団研究の充実 	3	3

〔3-(4)に関するデータ〕
(児童アンケート)学習の約束を守っています。



〔4-(5)に関するデータ〕(保護者アンケート)子どもたちは授業をよく理解できている。



◎取組の実際

- 学習習慣の確立と基礎・基本の定着
 - 学習の約束強調週間(1月)
 - ノートを見る day パートⅠ校長先生が見る(10・11・12・2月:4・2・6・1年)
 - ノートを見る day パートⅡ学年の先生が見る(2月)
 - 授業ノート展(11月)
 - ノートマイスターの表彰(12月・3月)
 - 城西検定(朝学習〈国語・算数、月1回〉)
 - 音読・短作文・タブレットの計算練習(朝学習)
 - 週末プリント学習(4月から継続)
 - 家庭読書の日(月1回)
 - ハッピープレゼントタイム(職員による読み聞かせ)
 - 学習環境の整備(花壇整備5月~10月)
- 授業力の向上
 - 授業づくりのための研究会の充実(学団での指導案検討会、模擬授業での検討会、事後研究というPDCAサイクル)
 - 一人一研究授業の実施
 - 基礎・基本の力の育成
 - 本気ツズタイムの充実
- 校内研修の充実
 - ワークショップ型授業研究会の実施
 - 校外研修への積極的な参加と情報の共有化
 - 学団研究計画の作成及び実施
 - 全校研修会(本校の基本授業スタイルの共有・ICTの活用の情報交換)ミニ研修会(教科、生徒指導など)の実施

重点C やさしい心と安全・安心づくり

4 やさしさと思いやりの心の醸成

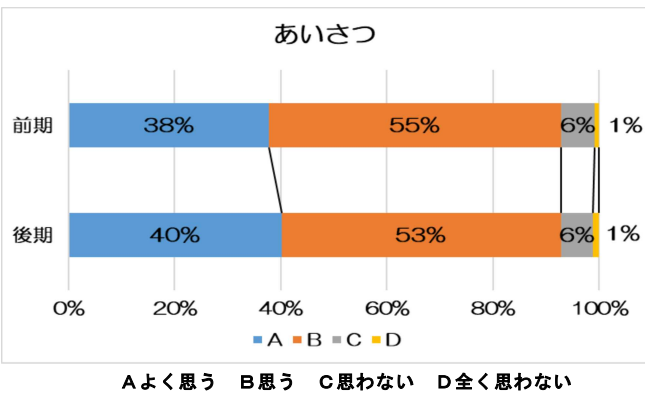
学校の状況	自己評価 A	運営協議会評価	運営協議会のコメント	
互いの良さに気づき、自分を大切にしながら他を思いやる心を持ち続けようとしている。	前期	概ね良好	良好	保護者から高い評価を受けている。「なの花カード」などの継続した取組により成果を高めている。
	年度	概ね良好	概ね良好	なの花カードを活用した取組を生かしてほしい。児童の心のケアは難しい課題である。あいさつの習慣化の取組とともに引き続き力を入れてほしい。

自己評価の概要と学校の改善策 【年度（→次年度）】
 あいさつ強調週間を設定し、あいさつカードを使用しながら自発的なあいさつを促した。カードには、家庭からの欄を設け、家庭でもあいさつの大切さについて考えてもらうきっかけづくりとするようにした。また、運営委員会の発案・計画により、あいさつウォークラリーを実施した。縦割り班であいさつをしながら校内を回り、教室にあるクイズを解いて楽しみながら活動した。出会った人とあいさつをするというこの活動は、異学年交流にもなってよかった。今後は自分からのあいさつ、強調週間やカードがなくても続けられることが課題である。日常的なあいさつが身に付くよう、家庭でもあいさつの大切さを伝えてほしいと考えている。
 なの花カードは、友達のよいところ、がんばっているところに目を向けられるよう、放送や掲示により紹介を続けている。友達の思いやりやがんばりの姿に気付いたり広めたりすることができた。3学期は「成長した自分」に目を向けたカードにする。また、ハートアップで異学年交流を行った。ゲームなどの触れ合いの活動を通して交流の輪が広がった。上学年のリードで、下の学年のことを考えたり、下の学年が慕ったりという場面が見られたので、今後も互いを認め合う活動として継続したい。

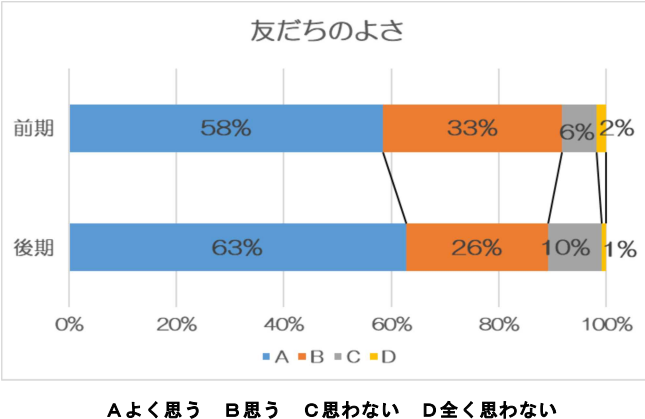
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
5 思いやりとやさしさの心をもつ子	(6) 主体的な特別活動・児童会活動	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体となつてのあいさつ運動 ・児童の発意・発想を生かした児童会、委員会活動 ・自他のよさを認め合う「なの花カード」 ・縦割り班清掃への取組を中心とした異学年交流 	3	3

[5-(6)]に関するデータ

(保護者アンケート) 子どもたちは元気にあいさつをしている



(児童アンケート) 友だちのよいところを見つけている



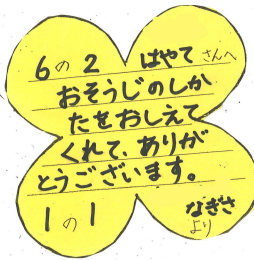
◎取組の実際

- あいさつの活性化
 - 毎月のあいさつ運動 (学年)
 - あいさつ強調週間の実施
 - ・あいさつカードの使用
 - あいさつウォークラリーの実施
 - ・異学年交流の場
 - ・児童による発案、企画
- ハートアップタイム

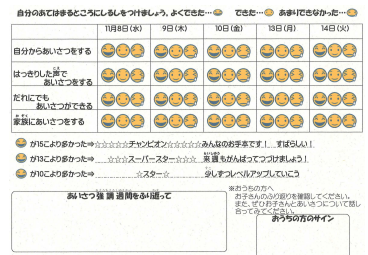
円滑な人間関係作り、自他を思いやる心をねらいとした交流を実施

 - 兄弟学年による異学年交流
 - 縦割り班清掃
- なの花カード

友達のよさを紹介するカードを廊下に掲示し、校内放送で紹介
- その他
 - 児童の意見を生かす城西サミット会議
 - 児童の発想を生かす児童会、委員会活動



なの花カード



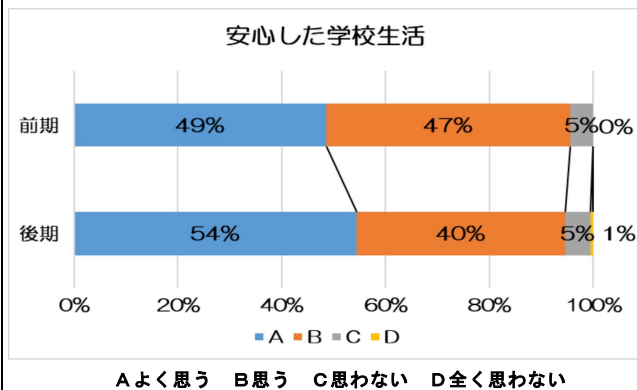
あいさつカード

5 安全・安心				
学校の状況		自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
児童の校内外における安全確保につとめ、諸問題に組織的に対応している。	前期	概ね良好	良好	児童、保護者ともに評価が高く、安全安心な学校づくりに尽力している様子がよく伝わってくる。今後も継続した取組をお願いしたい。
	年度	良好	良好	迅速かつ組織的な対応をしていることが大きな成果につながっている。今後の取組にも期待している。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期（→年度）】前期から継続で、安全の意識化を図る取組として、校内では「城西っ子の一日チェック表」を活用し、児童が自分自身を見つめ、振り返ることで、安全意識を高めるようにしている。また、校外では、おたより「城西っ子の暮らし」や1学期や2学期の終業式後に、長期休業の暮らしについて安全指導を行い、未然防止に努めている。更に、全校放送等で校内外の安全について注意を呼びかけてきた。前期同様、毎週水曜日の職員打合せ後の「児童理解」や継続的にケース会議（いじめ・不登校対策）を行い、児童についての共通理解や支援の見通し、外部機関と繋ぐなど、様々な手立てを考え、組織として不登校・いじめへの対応や事故・トラブルの未然防止及び迅速な対応に努めてきた。</p> <p>次年度も、未然防止を意識した積極的な生徒指導を継続していきたい。そのために職員間や保護者との情報共有を積極的に図り、連携していく。また、児童自身が危険場面を想像し、児童自ら回避できるような指導を工夫し、児童の校内外における安全確保に努め、諸問題に組織的に対応していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
6 組織的な生徒指導	(7) 諸問題への迅速で適切な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に必要な安全教育の実施(事件事故の未然防止) ・安全確保のための地域力の活用(オレンジ隊等) ・緊急連絡に伴うメール連絡網の整備 ・情報の共有化と、学校体制での迅速な対応 	3	4

〔6－(7)に関するデータ〕

(保護者アンケート)「安心して学校生活を送ることができている」



☆2学期は、1学期に比べて2%下がったが、十分達成できていると概ね達成できている合わせた肯定率は94%と高い評価である。(十分達成では5%上がった)

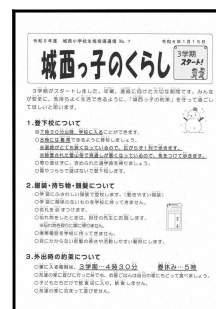
◎取組の実際

- (1) 朝の登校指導(月初め・学期の初めを中心に)
学校・保護者・地域：民生児童委員
- (2) ガードボランティア・オレンジ隊の活動
 - ①毎週水曜日1年生と一緒に下校
 - ②町内連絡会への参加と一緒に集団下校
- (3) いじめ未然防止の指導(1人1人に目を向けた学級経営)
 - ①いじめアンケート調査の実施(学期に1回)
 - ②教育相談の実施(全児童対象)

- (4) 職員の共通理解を図る生徒指導通信、主に校外の安全・安心の意識化を図る児童と家庭向けの「城西っ子の暮らし」の発行
- (5) 校内外の安全・安心の意識化を図る「城西っ子の一日チェック表」の活用
- (6) 毎週水曜日打合せ後の「児童理解」
 - ・教職員間で情報共有を図り、組織としての対応
- (7) 継続的なケース会議(いじめ・不登校対策)
 - ・児童についての共通理解や支援の仕方の見通し、外部機関と繋ぐなど、様々な手立てを考え、組織としての対応
- (8) 終業式後や昼の放送による安全指導
 - ・長期休業前、適時に実施
- (9) 緊急メールの活用
- (10) 「子ども110番の家」への協力依頼・適時訪問
 - ・5月、7月(長期休業中に全ての学級担任の協力で行う)、9月、12月、3月の計5回行う。



2学期終業式後に行われた「冬休みの暮らし」についての安全指導



主に校外の安全・安心の意識化を図る「城西っ子の暮らし」

重点D 健康と体力の向上

6 健康的な生活習慣づくり				
児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント	
健康への関心をもち、望ましい生活習慣を形成しようとしている。	前期	概ね良好	概ね良好	生活習慣の大切さについて、引き続き子供や保護者の意識を高めていってほしい。視力の低下が気になる。メディアについては、モラル指導や使い方についての指導を大切にしていってほしい。
	年度	良好	良好	こども園、保育園のとの連携が効果的であった。望ましいメディアコントロールの習慣化に向け、引き続き取組を充実させていってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	【後期（→年度）】 2回目の生活習慣チェック実施前に、児童・保護者を対象にメディアコントロール教室を開催した。その結果、「メディアは長くても1日1時間まで」の項目は、高学年の達成率が1回目より高くなったが、全体的に低い傾向が続いている。11月の生活習慣チェックに城西地区の3園の年長児にも参加してもらった。今後も幼保小が連携し、早期からのメディアコントロールの定着を図ってきたい。清掃指導では、「班長会議」で定期的に注意事項を確認し、円滑に掃除を進められるようにした。また、班長の振り返りから掃除をがんばっている児童を学級で称揚し、家庭にも知らせることで意欲の向上を図った。給食指導では、給食センターの栄養教諭による食育指導を行うなどして児童の食に関する意識を高めてきた。 今後は、年2回の生活習慣チェックを比較し、学級での指導に生かすとともに、保健だよりで各家庭へ情報発信し、啓発を一層図っていく予定である。また、学校保健委員会で話し合われた健康課題について、課題の改善に向けたよりよい生活習慣の施策を探っていきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
7 健康で明るい生活ができる子	(8) 基本的な生活習慣・食習慣の定着	・生活習慣チェックの実施と情報発信 ・学校保健委員会との連携	3	4
	(9) 自立に向けた生活指導の確立	・清掃指導（縦割り班活動の充実、掃除方法の徹底） ・給食指導（準備や片付け、マナーの徹底、栄養指導を通じた食育の推進）	3	4

〔7-（8）に関するデータ〕
 ～生活習慣チェック結果～

■ 5月 ■ 11月

<メディア> 長くても1時間まで

○ 2・5・6年生は、5月より高くなった。
 ▲ 「早ね」「早おき」「朝ごはん」「歯みがき」「あいさつ」の項目に比べて、「メディア」の全校の達成率が低かった。

◎ 取組の実際
 (1) 学校保健委員会の開催
 ・学校医や保護者との連携
 (2) 委員会を中心とした活動
 ① メディアコントロール週間に向けた呼びかけ
 ② 生活習慣チェック実施の呼びかけ
 (3) 清掃指導
 ① 掃除方法のビデオ説明
 ② 班長会議での清掃指導
 ③ 班長による「良いところ紹介」の放送
 (4) メディアコントロール教室
 (11月 PTA 授業参観)

◎ 「起床」と「メディア」は市の平均より高かった。
 ▲ すべての項目で達成率が年々低下している。

～大館市一斉メディアコントロール週間結果～

	起床	朝食	就寝	メディア
R 3	86.8	98.6	74.8	78.3
R 4	85.2	97.7	74.3	77.0
R 5	80.7	96.7	71.8	75.6
R 5市平均	77.2	96.7	73.1	73.0

◎ 「積極的に取り組んでいた」「時間いっぱいそうじをした」で「ほとんどの人ができていた」が、1月は5月より大幅に増えた。

〔7-（9）に関するデータ〕
 ～清掃班長会議の振り返りより（6年生が班を評価）～

◎ 「積極的に取り組んでいた」「時間いっぱいそうじをした」で「ほとんどの人ができていた」が、1月は5月より大幅に増えた。

(5) 給食指導
 ・給食センターの栄養教諭による「食」に関する指導

7 体力の向上				
児童生徒の状況		自己評価 A	運営協議会評価	運営協議会のコメント
運動に関心を持ち、自らの体力の向上に取り組んでいる。	前期	良好	良好	効果的な施策によく取り組んでる。体力向上に向けた取組を今後もお願いしたい。
	年度	良好	良好	業間運動などで体力づくりに向けた取組をよく頑張っている。今後も継続した取組をお願いしたい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】 業間運動として春から秋まで太陽の時間にマラソントimeを設けている。グラウンドの周回数に応じてカードに色を塗ることで意欲的に取り組むことができた。また、マラソン記録会でタイムを測り、マラソン運動実施前と比較することで自分の成長を実感できるようにした。2学期の終わりと3学期にはなわとび運動を行い、冬期間の体力づくりの機会としている。</p> <p>児童委員会の取組として、マラソントimeやなわとびタイムの運営、スポーツ集会や城西オリンピックの企画運営を行った。児童自らが企画して全校児童が楽しんで運動できる機会として、非常に好評だった。</p> <p>来年度も、児童委員会の活用や、がんばった児童を称揚する取組を工夫して、さらに進んで体力づくりに取り組む児童を育成していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価 B	
			前期	後期
8 進んで運動できる子	(10) 体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会や新体力テストを意識した業間運動 ・ 新体力テストの実施 ・ テスト結果を基に補強を意識した体力づくり 	4	4

◎取組の実際

1 業間運動

(1) マラソントime

- ・ 太陽の時間に実施
- ・ 体育委員会が主体となって実施
- ・ マラソンカードの活用
- ・ 目標周の設定と明記
- ・ マラソン記録会の実施→記録向上を賞賛
- ・ 春と秋の2回の実施

(2) なわとびタイム

- ・ 太陽の時間に実施
- ・ 体育委員会が主体となって実施
- ・ なわとびカードの活用

2 委員会の取組

(1) スポーツ集会

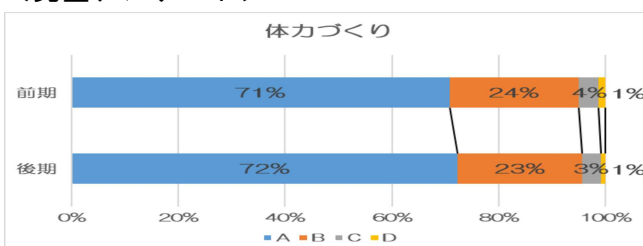
- ・ 昼休みに実施
- ・ ボーリング
- ・ ボッチャ

(2) 城西オリンピック

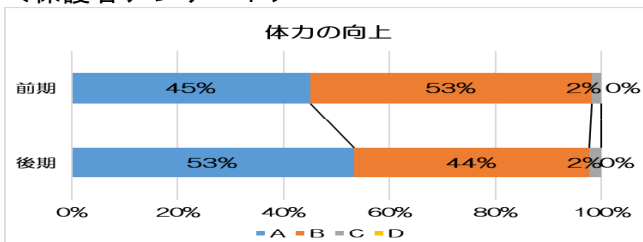
- ・ ドッジボール

[8に関するデータ]

<児童アンケート>



<保護者アンケート>



なわとびタイム



スポーツ集会

重点E ふるさとキャリア教育

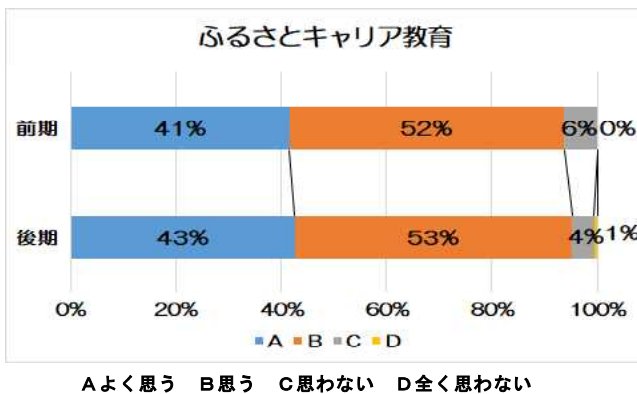
8 ふるさとキャリア教育

児童生徒の状況	自己評価A	運営協議会評価	運営協議会のコメント	
地域のためにできることを考え、取り組んでいる。	前期	良好	良好	地域と連携した活動や地域のためにやっている活動が非常に充実している。今後も継続をお願いしたい。
	年度	良好	良好	地域や外部機関との連携がすばらしい。ふるさとキャリア教育の充実に向け、今後も力を入れていってほしい。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【年度（→次年度）】後期のアンケートでは、学校のふるさとキャリア教育に対する保護者の理解と協力が徐々に増ってきていることが見て取れる。全校参加の夢授業の際、地域と保護者に案内を出して自由に参観する場を設けたことも、ふるさとキャリア教育の現場を見ていただくよい機会になったと考えられる。</p> <p>子どもハローワークへの参加も学年が上がるにつれて増える傾向にあり、地域の様々な職業に触れたいという児童の意欲と、多くの体験を通して将来への視野を広げてさせたいという保護者の期待が感じられる。チラシを校内に掲示することに加え、対象学年の児童全員に募集用紙を配付してきた成果と思われる。</p> <p>現在、生活科（1・2年生）と総合的な学習の時間（3～6年生）の伝達プロジェクトが進行中である。どの学年も発達段階に応じ、各教科で学んだ内容や培った力を駆使して、下の学年に自分たちの経験と成長、地域との関わりの大切さを伝えようとしている。</p> <p>次年度も、児童が地域への思いをより一層大事にしながら、地域のことを詳しく調べたり、地域のためにできることを考え、発信したりする機会や場の設定にさらに努めたい。また、地域や保護者に理解していただくとともに、さらに協力を仰ぐための方策も検討していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	後期
9 できることを考え実践できる子ども	(11) S C 活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあい緑の活動 ・町内 S C 活動 ・子どもハローワークの奨励 ・キャリアノート・パスポートの活用・推進 	4	4
	(12) 弥栄プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・弥栄集会への取組 ・地域学習 ・夢授業 	4	4

〔9に関するデータ〕

〈保護者アンケート〉
（学校は）ふるさとキャリア教育を進めている。



- ②子どもハローワーク
全校へ案内を随時配付・取りまとめ
延べ124名の申し込み
- ③キャリアノート・パスポートの活用・推進

(3) 弥栄プロジェクト

- ①地域と関わる学習
 - 1年生…昔の遊び体験
 - 2年生…まちの公共施設巡り
 - 3年生…鳥潟会館・郷土博物館見学
 - 4年生…介護のお仕事PR隊
 - 5年生…城西っ子米づくり感謝の会
 - 6年生…職業に関する学習

②弥栄集会Ⅲ（伝達集会）への取り組み

- これまで取り組んだ弥栄プロジェクトを各学年毎に下の学年へ紹介・伝達
- 1年生…学校紹介（体験入学で年長児へ）
 - 2年生…まち探検クイズ
 - 3年生…森林学習のまとめの発表
 - 4年生…福祉に関する発表
 - 5年生…米作りに関する発表
 - 6年生…総合的な学習のまとめの発表

◎取組の実際

(1) S C 活動の推進

- ①5・6年生と地域の方（オレンジ隊）が話し合った計画を基にクリーンアップや神社の清掃を実施

(2) 夢を育む取組

- ①夢授業
 - ・大館囃子体験（8月 全校）
 - ・開校記念集会（9月 全校）
 - ・サトシンの絵本読みまショー（10月 全校）
 - ・桂桜高校との交流授業（11月 3～6年）
 - ・防災プロジェクト教室（11月 4年）
 - ・ようこそ先輩（2月 5・6年 職業講話）

防災プロジェクト教室



桂桜高校との交流授業